

1 主題名 「マナーの根底にあるもの」

授業者 世田谷区立桜丘中学校

2 内容項目 B 礼儀

教諭 大谷 秋音

3 教材名・出典 「Manners make the man.」(「こころ見つめて」)

4 ねらい マナーの意義を理解し、心のこもったマナーを実践しようとする、道徳的実践意欲と態度を育てる。

5 展開

	学習活動	主な発問・予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	マナーについてのイメージを聞く。	「マナーと聞いて思いつくことはどんなことですか。」 ・挨拶をすること。・席を譲ること。	事前に forms で「マナーと聞いて思いつくこと」というアンケートをとり、その結果を、ワードマイニングとして示す。(☆ICT の活用)
展開	マナーとルールの違いを考える。 教材「Manners make the man.」を読み、考える。 席を譲る場面絵を見ながらマナーの意義を考える。 (☆ICT の活用)	○「ルールとマナーの違いはどんなものですか？」 ルール ・守らないといけない。 ・守らないと罰則がある。 ・誰かが決めたもの。・法律・学校の校則 マナー ・守らなくても罰則はない。 ・必要なもの。・大切なもの。 ・自然に出来上がったもの。 ・みんなが快適に過ごせるためのもの。 ◎「この生徒は席を譲ったときにどのようなことを考えていたと思いますか？」 ・しょうがないなあ。・運が悪かったなあ。 ・何も考えていない。・辛そうだから譲ってあげたい。・譲るのは当たり前。 ○「この生徒は、席を譲った後、どう思ったと思いますか？」 ・感謝してくれて嬉しい。・譲って良かった。 ・照れるなあ。・罪悪感がある。	地域にあるポスターや学校にある表示も提示しながらマナーについて考える。社会だけでなく、学校にもルールとマナーがあることに気付かせる。 ルールとマナーの違いをロイロノートのスライドに挙げ、提出箱に提出する。それを全体共有にし、全員で確認しながら、黒板に書く。 (☆ICT の活用) マナーには、守らなかった場合の罰則はないが、必要・大切であると思っていることを共通理解する。 教材「Manners make the man.」を範読する。 ◎は、4人程度のグループで話し合う。班ごとに 出た意見を発表する。その内容の傾向を全員で考える。 ○は、ロイロノートのテキスト機能で打ち込み、提出箱に提出する。その後、匿名で全体共有にする。生徒自身が自分の iPad で全員の意見を見る。(3分読む時間を取る。)何人かの意見を取り上げて、全体に対して問いかける。 (匿名のため)譲ったときの気持ちが、譲った後の気持ちに影響するのか、も考える。
終末	マナーを守るとはどのようなことか考える。	○今日の学習を通して、マナーを守ること、あなたは今、どう考えていますか？授業の感想を含めて書いてください。	ロイロノートのテキスト機能で感想や振り返りを打ち込み、提出箱に提出する。 (☆ICT の活用)

6 評価

① マナーを求められるときの心の中の思いや考えについて多面的・多角的に考えているか。

② 心のこもったマナーを行うことの意義について、自分自身のこととして考えを深めているか。

■主題設定の理由

※ねらいとする価値や教材観等

礼儀は、他者に対するものであり、社会生活の秩序を保つために守るべき行動様式である。しかし、それだけにとどまらず、その根底にある思いや心、相手に対する思いやりをもって行うことが大切である。

生徒たちは、どんなことを行えばいいのか、マナーを守ることが大切であることは理解し、行動にうつしているが、そこにある思いや、自分自身の考えに焦点を当てられる者は少ない。偽礼をいう言葉もあるように、とりあえずやる、という場面もある。本教材では、マナーとは表面的な行動のみをさすのではなく、その根底にある思いや心について考えを深めていく。また、マナーを守るときの思いや、守った後の思いを自分事として考えることで、自分自身としてどう在りたいか、という視点でも社会的な存在としての自分を考えられるようにする。

■指導の工夫

【導入の工夫】

事前に forms を用いてアンケートを取ることで、全員の意見をテキストマイニングとして表示することができ、テーマに対しての他者の意見を知ること、興味をもって考えることができる。

【展開の工夫】

展開では、マナーについての共通認識を行ったあと、自分たちの住んでいる地域や学校の中にあるマナーの呼びかけを再確認することで、自分のこととして捉えやすいようにする。また中心発問において、場面絵をICTで提示することによって、生活の中で起こりうることでマナーについて考えを深める機会を作る。また、ロイロノートで全員の意見を共有することで、マナーを守るときの気持ちを全員分見ることができ、多様な視点をもってマナーと気持ちや思いの関係を考えることができる。

【ICTの活用の工夫】

ICTの活用は、ねらいに沿って道徳的な課題について考えを深めるために行う。そこで、全員の意見を可視化するために、ロイロノートの全員共有の機能を用いる。これにより、効率的に全員の意見に生徒が触れることができる。また、生徒一人一人の考えをそのまま知ることができ、さらに生徒が互いに共有した内容への感想や疑問を生徒がもつことで、多面的・多角的な視点をもち、深く考えるきっかけになると考える。

【板書例】

Manners make the man.

マナーの根底にあるものを考えよう。

この生徒は、席を譲ったとき、どのようなことを考えていたと思う？

ルール

守らないといけない。誰かが作った。

譲るのは当たり前・しょうがないなあ。

罰がある。校則 法律

楽になってほしい。・運が悪かったなあ。

必要

マナー

罰則がない・人が作った

この生徒は席を譲った後、どう思った？

皆が過ごしやすくなる

感謝してくれてうれしい。・罪悪感

大切 必要

譲ってよかった。・照れるなあ。